



町家の軒下や駐車空間を活用した朝市の舞台となる高岡市吉久の町並み



## 戸建て住宅における駐車空間の使いこなしに関する研究 —高岡市吉久の使いこなしの実態と空間・居住者特性との関係に着目して—

Research on the Use of Parking Space in Detached Houses  
: Focusing on the Relationship between Conversion and Alteration and Space and Occupant Characteristics

建築計画/論文

人文社会芸術総合研究科

北島 陽貴

Haruki Kitajima

### ◎研究目的

一般的に駐車空間に占領される現代日本の住宅地の町並みは、その無機質さや画一的な風景から批判されることが多いが、駐車空間を消し去ることは現実的ではない。しかし、本研究では少し視点を変えて、居住者による生き生きとした使いこなしに着目することで、家とまちの中間領域である駐車空間を再解釈し、生活をより豊かにする生活領域や生活景の舞台としての可能性を探求する。そこで、使いこなしの実態と空間・居住者特性との関係から、使いこなしの特性とメカニズムを明らかにすることを目的とする。

### ◎方法と考察

複数の構成年代で形成され、町家の軒下や駐車空間を活用した朝市や地域行事が催されている高岡市吉久をケーススタディとして、観察調査・アンケート調査・ヒアリング調査を組み合わせて調査を行う。その結果をもとに、使いこなしの種類と空間特性・居住者属性・居住者意識の関係を分析する。

### ◎結論

戸建て住宅における駐車空間の使いこなしは、駐車以外の用途による転用と改変で構成される現象である。転用は健康で活動性が高く、地域外からの転居や時間にゆとりが生まれることで生活に変化が生じる居住者と、媒介要素と空間のゆとりを有する駐車空間の組み合わせによって生じやすく、改変はその転用に伴って生じる。さらに、その使いこなしをきっかけとして、駐車空間において地域コミュニティを育む生活領域が形成され、駐車空間に対する愛着が高まることで、生き生きとした生活景が醸成される連鎖が生じる。